

MACF 礼拝説教要旨

2021年10月3日

「救い主を待ち望む」

ルカの福音書 2章 21～40節

2:21 八日たって割礼の日を迎えたとき、幼子はイエスと名付けられた。これは、胎内に宿る前に天使から示された名である。

2:22 さて、モーセの律法に定められた彼らの清めの期間が過ぎたとき、両親はその子を主に献げるため、エルサレムに連れて行った。

2:23 それは主の律法に、「初めて生まれる男子は皆、主のために聖別される」と書いてあるからである。

2:24 また、主の律法に言われているとおりに、山鳩一つがい、家鳩の雛二羽をいけにえとして献げるためであった。

2:25 そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい人で信仰があつく、イスラエルの慰められるのを待ち望み、聖霊が彼にとどまっていた。

2:26 そして、主が遣わすメシアに会うまでは決して死なない、とのお告げを聖霊から受けていた。

2:27 シメオンが“霊”に導かれて神殿の境内に入って来たとき、両親は、幼子のために律法の規定どおりにいけにえを献げようとして、イエスを連れて来た。

2:28 シメオンは幼子を腕に抱き、神をたたえて言った。

2:29 「主よ、今こそあなたは、お言葉どおりこの僕を安らかに去らせてくださいます。

2:30 わたしはこの目であなたの救いを見たからです。

2:31 これは万民のために整えてくださった救いで、

2:32 異邦人を照らす啓示の光、あなたの民イスラエルの誉れです。」

2:33 父と母は、幼子についてこのように言われたことに驚いていた。

2:34 シメオンは彼らを祝福し、母親のマリアに言った。「御覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりするために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。

2:35 —あなた自身も剣で心を刺し貫かれます—多くの人の心にある思いがあらわにされるためです。」

2:36 また、アシェル族のファヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。非常に年をとって、若いとき嫁いでから七年間夫と共に暮らしたが、

2:37 夫に死に別れ、八十四歳になっていた。彼女は神殿を離れず、断食したり祈ったりして、夜も昼も神に仕えていたが、

2:38 そのとき、近づいて来て神を賛美し、エルサレムの救いを待ち望んでいる人々皆に幼子のことを話した。

2:39 親子は主の律法で定められたことをみな終えたので、自分たちの町であるガリラヤのナザレに帰った。

2:40 幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた。

\*\*\*\*\*

1) 律法に従う

割礼という儀式にしても、宮参りという儀式にしても、マリアとヨセフは律法にもとずいて丁寧に実行しています。こういう出来事の中にも救い主とその両親の謙遜さを見ることができます。

彼らが宮で捧げた奉獻物は「山ばと一つがい、または、家ばとのひな二羽。」でしたがこれは貧しい人たちの捧げものの代表的なものでレビ記 12章 8節に記録されています。

「12:8 なお産婦が貧しくて小羊に手が届かない場合は、二羽の山鳩または二羽の家鳩を携えて行き、一羽を焼き尽くす献げ物とし、もう一羽を贖

罪の献げ物とする。祭司が産婦のために贖いの儀式を行うと、彼女は清められる。」

貧しいけれど、その中で律法を尊んで生きていくという姿勢がみえています。

それはキリストが人間として「律法の下に置かれている」ということの象徴です。

つまりキリストは上から目線で人間のところにやってきたのではなく、むしろ、本当に貧しい家族の一員として、普通の人としてやってこられました。だからこそ、捧げ物の要求の難しさ、捧げたくても捧げることが難しい人たちの生き方に共感し、神様に喜ばれないのではないかと恐れ、不安に感じている一般の貧しい人の心がわかるのです。

ガラテヤの信徒への手紙 4 章 4～5 節参照。

「しかし、時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました。それは、律法の支配下にある者を贖い出して、わたしたちを神の子となさるためでした。」

## 2) シメオンの賛歌

さて、この神殿にシメオンという人が登場します。高齢者です。彼は、救い主に対する希望をもって生きてきた人でした。

神様は必ず救い主をお与えになり、イスラエル(神の民)を救い、慰めてくださると信じて律法を重んじ、神様を愛して生きてきた人でした。

シメオンという名は「主は聞かれた」という意味があります。象徴的な名前です。

救い主を待ち望んでいたシメオンの祈りを神様が聞いて下ったという「喜びの賛美」が捧げられています。これは、旧約時代の約束が実現しましたという意味があります。

老人シメオンが、そして 84 歳になっていた老女アンナが待ち望んでいた神様からの希望がまさに

この子供を通して実行されましたということ伝えていっているのです。アンナとは「恵み」という意味があります。ハンナというのも同じ意味があります。もともとはヘブル語です。

2:28 シメオンは幼子を腕に抱き、神をたたえて言った。

2:29 「主よ、今こそあなたは、お言葉どおりこの僕を安らかに去らせてくださいます。

2:30 わたしはこの目であなたの救いを見たからです。

2:31 これは万民のために整えてくださった救いで、

2:32 異邦人を照らす啓示の光、あなたの民イスラエルの誉れです。」

つまりシメオンはこのキリストこそイスラエルのみならず、すべての人の救い主だということを告白しながら、「もう本望です。望みがかないました、救い主を見ることが出来たのですから満足です。もう死んでも良いくらいです。」と賛美するのです。

## 3) 救い主を待ち望む

ここに圧倒的なキリストへの熱情と愛があります。また救い主への信頼があります。

ああ、この目が救い主を見た。この目が約束の救いを見た。それで充分だったのです。

実はここにこそ、私たちのキリスト礼拝の原点があるのです。

そして、さらに言えば、「救いはこの方の中にある」という希望の告白であり、その希望を持つことの大切さがここに教えられています。

さて、振り返って、私たちはキリストの生涯についての内容を聖書から学び、その予告についての預言の成就としての誕生も、奇跡も十字架による死についてさえ聖書から読み、学ぶことができま

す。そして「救い主キリスト」を信じて歩んでいます。

しかし、本当に「キリストが、キリストのみが救い主」という希望や期待、また信仰を私たちは持っているのでしょうか。

シメオンもアンナも長いこと幼児イエス様との面談を心待ちにしていました。

そして、この幼児を見た時、抱いた時「もう死んでも良い」と思うほどの感激に震えました。このお方の中にこそ希望があり、救いがあると信じて待っていたからです。待ち望んでいたのです。

実は私たちの周りには便利なものがたくさんあり、便利なツールを使って外国の人たちと瞬時に連絡ができるような世界が訪れました。さまざまな薬や食べ物が流通し、便利な時代になってきました。そういう中で、「キリストこそが救い主」という心が、わたしたちのどこかに残っているのでしょうか？

困ったら医者に行き、処方してもらい、薬を飲み、カウンセリングを受け休めば良くなるというのが現代人の医療的理解です。間違っていないと思います。

しっかり働いて給料を得、それを土台にきちんと生活を立てあげていくこと、これはほぼ万人に共通している社会通念です。

でも、私たちの霊的な健康保持、霊的な、精神的な、心の健康のために、私たちは何を持ち、何を待っているのでしょうか。

もっといえば「自分の存在確認」をどのように行なっているのでしょうか。自分が存在していても良いのだという確信をどこから得ようとしているのでしょうか。

自分という存在を人からの評価に頼らず、生きていても良いのだと確信する力となる「救い」それをどこに求めているのでしょうか。

救い主キリストは、あなたが人からなんと叫ぶようと、あなたのために死なれ、甦られられまし

た。あなたを愛し、あなたを永遠の祝福で満たそうとしてそうなさいました。

シメオンとアンナは礼拝しながら救い主との面会を待ち続けていました。

救い主が来てくださるはずだと信じていました。さまざまな物に囲まれながら生きている私たちが「心の中に救い主がいてくださる」と信じて、それを土台に生きていく時、シメオンの喜びを共有できるのだと思います。

パウロはコロサイの信徒への手紙にこう書きました

「1:27 この秘められた計画が異邦人にとってどれほど栄光に満ちたものであるかを、神は彼らに知らせようとされました。

その計画とは、あなたがたの内におられるキリスト、栄光の希望です。」

私たちはその希望をすでに、日々、心に受け取っているのです。キリストは、あなたの中におられます。キリストは来られたのです。あなたのために、あなたを永遠の祝福と平安に満たそうと、すでに来てあなたの心に住んでくださっているのです。あなたの存在そのものを頷き支援しておられる救い主があなたの心に住んでくださいます。

＊ ＊

少し、落ち着いて、目を閉じ、神殿の前で救い主との面会を待っているシメオンに心を向けましょう。

＊ ＊

あなたは今、シメオンの隣にいます。幼児を抱いた若い夫婦がやってきます。霊に促されてシメオンは近づき、キリストだと確信します。

その時の喜びの様子を想像してみてください。待ち望んでいた救い主と対面した、そのシメオンの笑顔と涙、そしてその賛美を想像してみてください。

私たちは礼拝のたびに、その感動を味わえるのです。祝福を心からお祈りします。